

# SHIMANTOGAWA MONOGATARI

2020.9.25  
Vol.287

## ただいま、四万十川出張授業中！



2020年7月1日 中村小学校

皆さん、こんにちは。いつも清流通信をご愛読いただきありがとうございます。

四万十川財団は長年、四万十川流域の学校の子どもたちに四万十川の環境学習を行ってきました。

今回は、その取り組みを通して現在の子どもたちと四万十川を皆様に伝えていきたいと思えます。

### 四万十川の環境学習をしています。

#### ■環境学習とはなんぞや

四万十川財団では、流域内の小中高生を中心に、四万十川の保全への理解が深まるように教育委員会や学校と連携し、総合的な学習や地域学習などの授業に参画しています。

簡単に言うと、学校で自然環境のことを授業で学ぶことになっていて、四万十川という環境をテーマに授業の手伝いをしているのです。

基本的には、四万十川の環境について教室で座学を行い、その後、実際に四万十川へ行って学ぶという授業を

しています。具体的な授業内容は学校の要望によって異なりますが、多くの学校では、水生生物について学びます。実際に水生生物を探し、その生物がいる川とはどんな川かを学んでいくものです。

### いろんな学校へ行っています。

#### ■令和元年度の訪問学校

要望があればどの学校にも伺います。今年度は、今現在、四万十町と四万十市を中心に計15校に訪問しました。

10人未満のクラスから70人規模の学年まで様々な学校があります。同じ流域でも生活環境が異なり、四万十川への関わり方も違います。町の子は四万十川で泳いだことがないという子もいました。逆に、生物が大好きで獲った生き物を瞬時に答えられる子もいます。

私たちにとっては、個性豊かな子供たちに出会える貴重な機会になっています。

※ 子供達の安全確保の為ライフジャケット購入費用は皆様からのご寄付で賄っています。また、学習に使用している下敷きはあいおいニッセイ同和損保様よりいただいた寄付金で作成しています。ありがとうございます。

## ■こんな授業をしています。

前述した基本と異なる授業も増えてきました。何校か紹介しましょう！



ヘビトンボ

### ●四万十市 中村南小学校

中村南小学校では、子どもの興味関心に合わせて授業を全3回行いました。

1回目は、4年生と一緒に四万十川へ行ってきました！まずは川に触れるということで川について知りたいことを探す日です。とても元気のいい4年生。最初は、恐る恐るお尻から水にゆっくり入って濡れるのを怖がっていましたが、一瞬でびしょ濡れです。

- ・川の流れを面白いとおもって、ライフジャケットの浮力を利用し上流から流れてくる子
  - ・川の流れに逆らって遡上する子
  - ・水中ゴーグルをつけて川の生物を探す子
  - ・河原の石を水が出てくるまで掘って温泉を作る子
  - ・水切りのプロ？に水切りを教えてもらう子
- などなど、たくさんの遊びが生まれました。

その中で、たくさんの気づきがあったようです。「一番流れが速いのはどこだろう。」「どんな川の生物がいるのかな。」話し出すと止まらない。遊びも止まらない。

2回目は1回目です。知った川の疑問に四万十川財団が答えに行く授業です。

①川の始まりはなに？、②川の深さはどれくらい？、③水の温度や速さは？、④四万十川は昔と今は何が変わったの？素朴でシンプルな質問ですが、わかりやすく説明するのは

難しい。私たちも改めて川の成り立ちから勉強しなおしました。

授業の中で子どもたちの反応は面白く、なんでなんでがどこまでも続いていきます。難しい話もありましたが、分かってくれたのでしょうか。

実際に体験したことからの疑問を解決して、「知る」という勉強の面白さを感じてくれたように思います。

さあ、中村南小学校の4年生たちと3回目の授業は四万十川学遊館へ行ってきました。

一番たくさんの質問があった四万十川の魚について、四万十川学遊館の野村彩恵先生に教えてもらいます。

たくさんの水槽と不思議な魚たち。特にお目当てのアカメには大興奮でした！

一つ一つの魚の説明を熱心に読む子や、気に入った魚の絵をスケッチしている子、たくさんの魚に興味を持ちました。魚の顔や体、行動にも様々な意味があります。なんでだろうという疑問を持つ姿がとても素敵でした。

野村さんからは、四万十川にいる魚について様々なことを教えてもらいました。特に、四万十川の環境が変化して、魚の種類が変化していると学びましたが、少し難しかったかもしれません。

大きくなっていろいろなことが結びついたときに思い出してくれたらいいなと思います。子どもたちは、着実に学びを重ね、この授業が終わるころにはすっかり四万十川に詳しくなっていることでしょう。



2020年6月25日 四万十川学遊館で野村さんに魚の話聞く子供たち



2020年6月16日 四万十川でそれぞれの遊びを楽しむ子供たち



2020年6月25日 アカメの水槽



2020年6月16日 ライフジャケットで浮いて楽しむ子供たち

## ●四万十町 影野小学校



影野小学校も面白い取り組みを始めています。

ビオトープ復活プロジェクトです！ビオトープは約20年前に当時の小学校の教員や保護者、地域の人たちが子供たちのために作ったものです。昔は田んぼだった土地に隣を流れる谷川から水をひき入れ、小屋もたっている素敵な場所です。

しかし、残念ながら現在は使われていません。

今年はそのビオトープの復活に挑戦します！！きれいになったら、こどもたちの授業や遊びの場所として活用していきたいという意気込みです。

その前に一足早く、5、6年生は総合の授業で水生生物を勉強したので、実際にどんな水生生物がいるのか観察することになりました。今のビオトープには草が生い茂り、どこに水があるかわからないジャングル状態です。そのビオトープに何がいるのか・・・かすかな水の痕跡を探ってみ

ました。

最初は濡れることを嫌がっていたこども達ですが、次第にずんずん入りこみ、急な雨が降ってきてもお構いなしで生物に夢中になっていました。

ビオトープの横を流れる谷川にも生物を探しに行きましたが、小さな谷川をどんどん上っていき淵に来ると、みんな泳ぎ始めて大騒ぎでした。

さて、生物はというと、たくさん見つけることができました。ビオトープと谷川で異なる生物がいて面白かったです。特にビオトープはトンボのヤゴが多く見つかりました。谷川は意外にも虫が少なく、3面張りの影響が考えられます。

今後、小学校全体でビオトープの活用を考えていきます。さあ、どんな場所になるか楽しみです。



サナエトンボヤゴ



2020年5月21日 影野小学校の座学



2020年5月26日 ビオトープ



2020年5月26日 ビオトープの下の小川



2020年5月26日 水生生物の同定

# 子どもたちは川が大好きです。



ヒラタドROMシ

# 進化する環境学習



ヒゲナガカワトビケラ

この学習を通して思うのは、川で遊ぶことが嫌いな子はいないということです。最初は水に怖さを感じる子も多いですが、それは一瞬のこと。ものすごい勢いで遊びだし、止めるのは一苦労です。授業が進まず困ることもあるほど川に夢中なのです。そんな時に、子どもたちは川が大好きなんだと感じます。

そんな子供たちですが、普段は、危ないから子供だけで川に行ってはいけないと言われていました。

私たち大人は、よく「最近の子どもたちは・・・」と、現代の子どもたちと昔の自分を比較することがあります。よく考えてみれば、子どもたちが変わったのではなく、今の大人の私たちが遊べない環境を作っているのかもしれない。危険と遊びのバランスは非常に難しいですが、子どもの自由な遊びを尊重するために、「危険だから川に行くな」ではなく、子どもの遊べる川や川での危険とはなにかをもう一度考えていくべきではないでしょうか。

四万十川財団として長年行ってきた授業ですので、今は、授業に型ができ教えやすい体制になっています。

しかし、課題も見えてきました。川に行くので天候に左右されること、授業教材のバリエーションが少ないこと。天候が悪くても四万十川の勉強はたくさんできます。小学校の方針や子供たちに合わせて、授業教材を用意することも重要です。

また、今は総合的な学習の時間で授業を行っていますが、理科、社会などにも身近な実践教材として四万十川を提案していきたいと考えています。

学校という場を入り口に、子どもたちを川に触れさせる機会が作れるようになりました。今後さらに日常へつなげていけるような方向を考えながら、四万十川財団の環境学習は進化していこうとしています。



2020年5月26日 窪川小学校 偶然いた鮎釣り師に鮎を見せてもらう



カジカガエル



チチブ



2020年6月2日 下田小学校



2020年7月22日 竹島小学校



2020年6月29日 西土佐小学校



シマヨシノボリ



テナガエビ



2020年7月21日 七里小学校



2020年7月27日 大用小学校



2020年9月1日 中筋小学校



中筋小学校の皆さんからお手紙をもらいました。